

## 令和6年度第2回高知県地域学校協働活動推進委員会 会議要旨（各委員まとめ）

1. 日時 令和7年2月13日（木）10:00～12:00
2. 場所 高知県立塩見記念青少年プラザ 5F 多目的室
3. 出席者 委員7名、事務局4名 ほか19名
4. 議事
  - （1）令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画
  - （2）協議テーマ  
「子どもの「確かな学力、健やかな体、豊かな心」の育成に向けたコミュニティ・スクールのあり方について～導入後の取組について～」

### 5. 議事概要

委員長の議事進行により、以下の事項について、事務局から説明が行われた。委員からの主な意見のまとめは以下のとおり。

#### （1）令和6年度事業報告及び令和7年度事業計画についての説明

##### 【委員】

資料2の「地域とともにある学校づくり」の推進に向けての取組シートについて教えていただきたい。今年度、初めてシートを記入した。一体的推進に繋がった事例等を記入していくものであったが、感じたことは、他の自治体の例や取組状況が共有されたらイメージが付きやすいと感じた。県内には良い事例があると思うので、集約して好事例を市町村教育委員会等に共有していただきたい。

##### 【小中学校課】

今年度、シートを共有する予定はしていない。今回ご意見をいただいたので、来年度に向けて検討したい。

##### 【委員】

4ページの資料2は、大事なことだと思う。意見も含めてになるが、1ページにもあったように学校運営協議会は、教育目標を実現する、或いは学校の課題解決をするために、何ができるかということをしかり協議、熟議をする場だと思う。教育目標の実現や目指す子ども像の実現でも良いが、「課題を解決するために、どのような熟議をしたか」といった項目まで入ると、学校運営協議会が、地域の連携・協働について協議をする場ではないということが明確になるので、項目について、ご検討いただきたい。

次に、来年度の研修のことになるが、15ページの地域学校協働本部の中に全体研修があるが、合同開催は良く良いと思う。質の向上に関しては大きな課題であるということは学校現場や市町村教育委員会の方も共有出来ていると思うが、正しく理解をされてない事が、一番大きな課題であると思うので、『コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の正しい理解』というテーマで、考えを深める研修を組んでいただければと思う。

生涯学習課と小中学校課と分かれて開催するのではなく、学校の教職員と地域の方が一緒になって協議することが大事であるので、分けずに最初から一緒に熟議型の研修を仕組んでいただきたい。

最後に学校安全対策課のスクールガード・リーダーについて、地域の見守りがあるがヘルメットの着用について、どう進めていくか見通しや対策等あれば教えていただきたい。

**【委員長】**

資料4ページのシートの内容や項目などを精査してみてもうかとの意見であるが、小中学校課としてはどう考えているか。

**【小中学校課】**

先ほどの質問と同様に、来年度検討していきたい。

**【委員長】**

2つ目の質問が、15、16ページの次年度の研修の計画にある8月18日の高知県地域学校協働活動研修会についての意見で、研修テーマとしては、「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールの正しい理解」で、研修方法としては、熟議型の研修を取り入れてはどうかということだが、生涯学習課はどのように考えているか。

**【生涯学習課】**

研修内容については、来年度に入って検討することになる。講師等の調整も行うので、意見も踏まえた内容で検討はしていきたいと考えている。

**【委員長】**

ヘルメットの着用についてだが、学校安全対策課はどのように考えているか。

**【学校安全対策課】**

ヘルメットの着用については、ヘルメット着用推進事業になる。今のところ来年度も継続して行っていきたいと考えている。県立学校については、令和7年度から自転車通学許可の条件にヘルメットの所有を入れるという方向で動いてもらうようにしている。市町村に関しては、継続して自転車のヘルメット着用推進事業の補助金を継続していけたらと考えている。また、令和5、6年度に相談があった市町村などには、自転車ヘルメット着用に向けた講師の紹介を行っているので、令和7年度も継続して行えたらと考えている。

県立学校については所持が条件だが、細かい部分は学校によって異なってくる。

**【委員長】**

8月18日に予定されている研修会について、委員から「コミュニティ・スクールや地域学校協働本部の正しい理解」といった提案があった。正しくない理解や誤解が広がっている場合もあるのかなと思うが、委員は具体的にはどのような正しくない理解や誤解が広がっていると分析されているか。

**【委員】**

学校運営協議会は、学校運営や学校運営に必要な支援について協議をするが、学校の説明に大半の時間を費やして、委員から質問や意見が少ないまま話が進んでいることがある。年度の最初と最後の2回しか運営協議会が開催されてないとしたら、制度の正しい理解にはなっていないので、運営協議会では、熟議をしっかりとすべきである。みんなで、知恵を出し合い、1つ納得のいく解を導き、合議体として意思決定をしていく過程を重要視をするところだと思う。

教育目標の実現や課題解決のためにどうするべきか、学校運営について協議をするところであり、地域との連携協働の活動の数を増やすことがコミュニティ・スクールの役割ではない。コミュニティ・スクールを推進する中で、地域との連携協働がテーマで話が進むとしたら、誤解だと思う。逆に、地域との連携協働がいくつかあっても、学校運営のことを考えたら、働き方改革については厳しいとなれば、見直したり、カットしたりすることは学校運営協議会がすべきである。

地域学校協働活動は、まさしく協働活動なので、教育目標の実現や、目指す子供像がこの課題解決のための活動であるかどうか。毎年同じことをやるのが地域学校協働活動ではないので、これは何のために活動を行っているのか、見直していかなければいけない。活動を見直す際に、カットしたり、時間短縮したりするような内容も協議をすべきと思う。学校の教職員が常に地域に出ることは大変であるので、地域の方と役割分担を行うことが重要である。地域の方に任せる部分は任せることについても、正しく理解していただきたい。

#### 【委員長】

学校運営協議会や地域学校協働本部の役割が、表面的にしか理解されておらず、何のための連携協働なのか深掘りすることや、熟議の行い方がわからないかもしれない。難しい研修テーマではあるが、具体化して研修に落とし込んでいければよいのではないかと。

#### 【委員】

先日、研修会に参加していて、グループワークに参加した際のご意見の中で、学校が求めることをやっていくことが我々の仕事であると地域の方が認識していたが、地域の方からも学校に提案していいんだといった話をしていました。

私は当然のことだと思っていたのですが、そういった認識の方もいるのだなと思った。コーディネーター研修会に参加したことがないみたいなので、広がっていくように繋げていくことが大切ではないかと思う。

#### 【委員】

地域学校協働本部が全市町村に広がっているが、自分が地域に入っていて思うのは、教育委員会や地域によって温度差がかなりあり、私が会議に出て聞いていると、凄く先進的なことを聞く。実際に地域に帰ってみると、自分の地域はどうなっているのだろうかと感じることが多々ある。市町村によっては会議に出ることが出来ない委員もいる。地域に根付くと効果があるということは分かっているが、地域コーディネーター研修会等に、参加者して思うのは、限られた時間の中で非常にたくさんのことを盛り込み過ぎていて、一般人は全然わからない。最後に交流を深めるグループワークがあるが、どこの誰で何を支援しているのか分からないまま話をするため、結局何を学んだか分からないまま帰るというパターンがあるのと、交流をしている市町村の委員の方は他の市町村がどのような取組をしているのか、具体的に聞きたい。もう一つは、その場で縁をつないで、可能なら一緒にやってみてみたいということを望まれているのではないかと。

今、研修は数を増やすことではなく、もっと減らしても良いので中身を練り直す作業があった方がよいのではないかとということが、参加者として感じた。

### 【生涯学習課】

最初にご意見があった地域の温度差については、市町村担当者会を行っている。主は事業概要の説明にはなっている。令和7年度にも同様の取組みは続けていきたいと考えている。市町村の職員は中心的な役割を担っていると思っているので、質の向上のためにいただいたご意見を含めた研修会や担当者会を行っていききたいと思っている。研修会の内容についても、講師と検討していきたい。今年度もグループワークなどの時間は多めに確保しようとしているが、改善できるかどうか検討していきたい。

### 【委員】

2ページの放課後子ども教室・放課後児童クラブの研修について、これだけ多くの研修を行っていることは始めて知った。その中で、子どもの発達障害等の理解促進研修会が行われているが、小学校は課題がある児童が増えている状況にある。課題がある児童も、放課後子ども教室や放課後児童クラブにも通われているが、支援員の方が苦戦している話を頻繁に聞いている。ぜひ、研修会に参加をして、理解を深めてもらいたい。

本校の子ども教室では、スクールカウンセラーの訪問を、放課後子ども教室側から要望があったときにしている。本校にスクールカウンセラーが勤務する、1時間～1時間半程度、子どもが来るまでの時間に、子ども教室に時間を渡すといった形でやっているの、方法の1つだと思う。

### 【生涯学習課】

支援員がスクールカウンセラーに相談を受ける事例に関しては、放課後事業について市町村担当者にヒアリングをしたり、現場の放課後児童クラブや放課後子ども教室に担当の者が訪問をさせていただき、どんな状況なのか情報収集もしているの、訪問する際に事例として、紹介をさせていただきたい。

### (2)「子どもの「確かな学力、健やかな体、豊かな心」の育成に向けたコミュニティ・スクールのあり方について～導入後の取組について～」

### 【委員長】

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動への参画が、学校の管理職に限定されているということが見受けられる。全ての教職員が関わることができるように、また、地域との関わりも積極的にもつことができるよう、どのように活動の効果、有効性について理解していただくか、協議を進めていきたい。「効果や有効性」については、1回目も意見をいただいたが、本日は特に「子どもの学び」に注目し、意見交換が出来たらと思う。

子どもの学びを深める、学びが深まるという点で、委員の皆様の活動している現場では、どのようなことが見受けられるか意見をいただきたい。

### 【委員】

北川村はゆずが基盤産業で、小学4年生からゆずについて学んでいるが、学び始めた当初は、ゆずが普段身近にあるもので酸っぱいといった印象だけ。ゆずは有名だが、どうして有名なのか分かっていない。そういった実態からスタートしている。

1年間、学習を通して生産者と関わったり、スマート農業やドローンを活用している支援者、ゆずを使って美味しいものを作る加工者の支え合いで、美味しいゆずが自分たち、地元の人たちに届いている

ことについては気付けるようになってきている。

【委員長】

子どもたちにしてみれば、日常的に特産品や有名な物はゆずと聞いているかもしれないが、なぜ有名になったかを深めて学ぶ機会は少ない。

【委員】

子どもたちが食べているご飯もゆずが入っていることを分かっているので、食育改善推進員の方にお願ひし、実際に子どもたちで収穫し、搾ったゆずを使って調理をすることで、美味しいご飯にはゆずが使われており、美味しいのはゆずの香りや酸味からといったことに気付くことができている。

【委員長】

学校の教員の意識に変化はあったか。

【委員】

北川村の教員は総合的な学習の時間では、初めての経験ばかりであるので、地域に出て、地域の方と実際にドローンを飛ばしてみたり、収穫をしたり、絞ったりする体験をすることで、教員自身も探究している。他の地域に比べて、北川村は総合的な学習の時間に力を入れているので、地域と関わることの良さはある程度理解していただいている。

【委員長】

総合的な学習の時間は、先生方にとって、地域と連携することの効果や有効性を理解していただくきっかけとなり、児童と一緒に体験していただくことで探究にもつながってきている。

【委員】

子どもの学びを深めることを考えた際に、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進によって学びが深まるのが大事なポイントになると思う。従来から、地域の連携協働で色々なことを行っているが、制度の導入とどう関わるのか大きなポイントだと思う。

春野地区では、コミュニティ・スクールが3年目になるが、一番最初にした熟議が、目指す子ども像と学校教育目標である。1から作り直そうとみんなで作り上げる課程が、協働において一番大事である。

2点目が、地域との連携協働を深めるために、どのようなことができるかを議論した。その際、学校運営協議会が出た意見は、子どもの様子はわからないので、学校だよりやホームページで、学校の取り組みや子どもの様子をどんどん発信してもらいたいといった内容であった。

どのような学びがあったのか学校だより等で発信すること、子どもの学びを中心として教職員と地域がつながることで、連携・協働の意義は間違いなく深まっている。従って、子どもの学びの共有が非常に大きなポイントになると思っている。

新しいことを行うと、多忙感を教職員が感じることから、現在行っている活動に地域の方々が参画することにより、学びが深まることを取り入れる。例えば、防災学習はコミュニティ・スクール導入前から取り組んでいたが、防災の日についてどのような取り組みをするか学校での取り組みを交えながら、学校運営協議会でずっと話を行ってきた。意見をもらいながら、各学年でつけるべき力を明確にし、○

〇力をつけようといったを学校運営協議会で明確にし、その後、共有して、地域の人的物的資源を活用することが、社会に開かれた教育課程であるので、地域学校協働本部を巻き込んで、活動することで充実している状態になっている。

どのような力をつけるかを明確にし、地域学校協働本部と一体的な取組みを行うことにより学びが深まる。活動だけで、何のためにの部分が抜ければ学びが成立しない。理屈だけでは進まないことから、全ての取組みは、学校運営協議会と地域学校協働本部は、何のためにという部分を明確にし、進めていくということが大事だと感じている。

もう1点、教職員と地域の方々が、熟議をすると必ず連携・協働の意義が深まる。子どもを中心に、関係する大人が関わることがすごく大事である。間違いなく共有することができるので、そのような機会が色々なところであつたらいいと思う。

#### 【委員長】

目指す子ども像や教育目標、子どもにどのような力をつけるかといった、広い意味での目標設定をみんなで行っていくというところや、学校運営協議会に学校の先生も参加して皆で話し合うことが大事なのではないかと思う。情報発信のお話もあり、私も中学校の防災の日や一日先生に関わらせていただいているが、学校だよりでは私たちが関わった結果、生徒に学びがあったということを具体的に言葉で伝えてくれている。そうしてもらえたら行って良かったと思えるし、また来年も協力しようといった気持ちになるので、子どもたちの学びというよりは感想で構わないので、フィードバックしていただくと、地域に関わる者としてはありがたいし、モチベーションアップにつながる。

一体的な推進により、学びが深まるというお話があつたので、小中学校課への質問になるが、今日の資料の4ページ、一体的推進につながった事例について、県内で一体的推進につながったり、子どもの学びが深まったという情報を持っていたら教えていただきたい。

#### 【小中学校課】

今年度は、自由記述にした。国の方からも一体的推進を言われているので、まずは意識してもらうためにシートを作った。一体的推進について、今年度については理解していない場合、白紙の状態でも今年に限ってはよかったということで、作成してもらっていた。提出があつた中でも、学びを深めるといった点になると、詳しいことまでは求めていなかったため、記載はなかった。多かつた回答としては、学校の方針やめざす子ども像について話し合い、そこで地域学校協働本部についても話し合つたといった内容であつた。

#### 【委員】

東又小は今年コミュニティ・スクールを設置した。どのようにやっていけばよいか、随分、委員にもご相談したが、本校も、1回目の学校運営協議会ではコミュニティ・スクールの話も含め、今年度以降の子ども像について熟議を積み重ねてきている。興津小学校との統合が今年あつたので、ちょうど良いタイミングと考え、興津地区、東又地区でそれぞれ委員の方々に、子どもの良さと課題を協議していただき、3つの子ども像を提案していただいた。

地域学校協働本部に「東又の子どもを守る会」があり、民生児童委員や駐在の方、郵便局長や保育所長など様々な関係機関の方、本来は30名ぐらいののだが、その時は15、6名の会議だった。12月だったが、児童会的な活動をしている子どもたちが地域に関わつた取り組みをプレゼンし、先生方も今までは

紹介程度で終わっていたが、今年は紹介だけではいけないなと思い、その後、地域の方、子どもたち、先生方でグループワークを行った。

保護者の方も会に入るのだが、これまではPTA会長だけが参加していた。PTA会長の働き方改革も考えるべきではないかということが、PTAの役員会の中であり、地域学校協働本部やPTAの会も入れ替わりで参加するようにした。会に参加した保護者の方も凄く良かったといった声を聞いた。地域の方が集まってこのような会をしていることを知らなかったので、今後、PTAの会にも参加した方が良いねと意見も出ていた。

グループ分けをして、準備したテーマの一つ目は、3つの子ども像について、もう1度グループで話し合ってもらったこと、テーマ2つ目は、それぞれの、課題や困っていることから話してもらったことでグループ協議を行った。最後は、教員も入っていたので、それぞれホワイトボードに書いたものをまとめ、共有した。

初めてこのような形のグループ協議を、先生方にも入ってもらったが、地域の方からもっと時間が欲しかったといった話を聞いた。ざっくばらんに話す機会が今までなかったので、子どもたちに入ってもらった良かったと感じた。

本来、子どもの声を聞いてご報告できればよかったが、子どもの意見も大人がよく聞いてくれていた。地域の声や声掛けがすごく嬉しいといった意見があったり、子どもの素直な意見で、「横断歩道で待っていても、車が止まってくれないので止まってほしい」といった日常の意見も聞こえてきた。

熟議について、ここで学ばせていただいたことを学校現場で活用できたことは良かったし、子どもの学びとなると、いろんな地域の方から吸収することも学びの1つと感じた。来年以降も、少しずつ上げていけたらと思っている。

#### 【委員長】

東又小学校の地域学校協働本部の会議では、子どももグループワークに入っているのか。

#### 【委員】

今までは、読み聞かせやクラブ活動の内容等についてプレゼンテーションを行い、地域の方から質問があったら答える流れであった。今回、子どもも入って楽しく話合いができた。

#### 【委員長】

子どもが、グループワークに入っているのは、非常に画期的な事例だと思う。大人だけでグループワークを行うことが多いと思うが、どのような経緯で入ようになったのか。

#### 【委員】

昨年度のこの会議で熟議を学んだ。ただ、大人だけが話すのではなく、子どもの声を聞いてもらいたかった。教職員もグループワークに入って良かったといった意見もあった。今回の時間配分であれば教職員の負担も少なく、地域の方も来ていただけるので、今後も続けていきたいと考えている。

#### 【委員】

関わっている学校が中学校なので、求められる内容がキャリア教育である。生徒からのリクエストに応じて職業講話を行っている。生徒との関係も近くなってきているので、要望は本当にそれだけでよい

のか促してみると、アニメクリエイターや漫画家、Jリーガーや三つ星レストランのシェフ等の要望があり、三つ星シェフだけ叶えることができず、二つ星レストランのシェフに大阪から来てもらった。毎年、25人から30人来ていただいているが、来ていただいてすぐ帰られるのはもったいないので生徒と名刺交換会を行った。今年はさらに、1分間で会社を紹介していただいた。学校でやることなのかは思ったが、ビジネスにつなげていただいても良いので行っていただいた。

講師で来ていただいている25人ぐらいの地域の方と話している中で、どのようにサポートしていきたいか考えていた際に、「毎日がキャリア教育」というテーマを打ち上げて、生徒に気軽に会社に寄ってもらったり、仕事の理解を深めてもらったりアドバイスしていききたいと一致団結した。

1つの会社のことだけ学ぶことが多いが、他の会社と関わることで事業ができていて、他の会社と一緒に取り組むことで事業が成り立っており、より現実に近い部分も教えることができるのではないかと意見も出て、手を組んでくれた。コンプライアンス等に関しては、中学生なので会社側でカバーしていきたいと考えている。

以前から気になっていることとして、各事業所に繋ぐことは私が行うが、実際に、事業所に連絡するのは担当教員が行ってくれている。連絡はとってくれているのだが、用件の説明だけで、教員が人に会うときのワクワク感や期待感を横で聞いていて感じない。人に会うことはとても楽しいことだと思う。キャリア教育の担当教員はもっと人に会うことを楽しんでいただきたい。

以前も紹介したと思うが、地域農園を作った。10アールぐらいのハウスを改修したのだが、結構な費用がかかった。地域の方に出し合ってもらった。高校生でクローズアップされている生徒もいるが、その生徒以外にも芋でも何でも好きに使って作って良いと伝えている。

土佐市では文旦が特産品だが、文旦作りの名人が85歳になって辞めた。畑を全部貸すから学びに使ったらどうかという話をいただいたので1年間やってみた。その際には、多くの人に関わっていただいた。

これらに関わってくれた、2年目の小学校教諭が、以前は教員が嫌になり辞めて地元に戻ると言っていたが、非常に積極的に関わってくれ、文旦作りは自分に任せてといった状態になっている。「土佐市の暮らし」という本があるのだが、その中で、最初の剪定から受粉、摘果、収穫、販売まで関わっているので、自ら動画を撮影し、児童に見せると言っていた。今では、教師は天職だと言っているので、1人の教員が辞めるのを防いだ。関わってくれた教員がキャリアの話をするために、地域の方に接していくのですがワクワクしている。前までは、人と接するのが苦手だったのだが、地域に出て行くことで、180度変わるのだなと思った。

話は長くなるが、高岡中学校通信を作成しているが、地域の方が通信を期待してくれている。2学期に発行できなかったのだが、なぜ出さないのかといった反応が沢山届き、発信の大事さが改めて分かった。前回から二次元コードをつけ、読んだ感想をオンライン回答してもらおうようにしていた。前回100人ぐらいが回答してくれていた。行事等のコメントもあったのだが、もったいないと感じたので、新聞形式でまとめた学びの成果物を出して、コメントを回答してもらおうと思っている。親身なアドバイスのものから辛口なものまでコメントはあった。

#### 【委員長】

学校側から、地域との関わりが一方通行にならないように、通信や広報誌を通して双方向のやり取りが出来る工夫が良いと思う。また、2年目の先生が生き活きと働いているということは、学校と地域に育ててもらったことになると思う。また、地域で学ぶことが、教員の学びにつながり、児童生徒への学

びにもつながる。キャリア教育について、毎日がキャリア教育という考え方に関しては私も同感で、職業的なキャリアに関わるキャリア教育のイメージが先行しているかもしれないが、キャリアの言葉の中には、生活や暮らしなど、日常の暮らし全てがキャリアといった考えた方があるようだ。そのように考えると、学校で学んでいるどの教科もキャリア教育に関係するという考え方もでき、学校生活すべてがキャリア教育なのかなと思う。

#### 【委員】

教員のネガティブな発想はどういうところか気になるが、コミュニティ・スクールが上手くいくと地域にも非常に役立つことなので、子どもの学びをどのように捉えるかは非常に大事なことだ。教科だけの学びだけではなく、社会生活や社会性を養うといった点での学びは大切だと思うので、どのように学びを捉えていくかは大事なことではないか。また、働き方改革についての記載があるが、地域の立場からすると教員の働き方を改革をするために地域の活動を行うのではなく、地域の子どもを育てるためなので、教員も自分の働き方については、本当に必要なかさび分けも必要だと思うし、ネガティブな発想をもった教員がもっとネガティブになってくる。

全体的な流れを見たときに、大人から子どもに与えるということが多いと思うが、委員からも話があったように、子ども達や地域を含め、先生方からもレスポンスを返してもらえると、良い取組になるのではないかと感じた。

情報発信に関しては、教育委員会全体に言えるのかもしれないが、最近ペーパーレスでメールで情報が送られてくることが多いので、せっかく良い活動を行っていることが、膨大な日々のメールの一部分となっており、保護者としたら、良さが伝わりづらい。取り組んでいることを、もっと効果的に情報発信できないかなと思っている。

もう一つは、コミュニティ・スクールの活動で、学校の授業等に参加しづらいが、イベント等には参加出来るといった不登校の子どもが一定数はいると思う。そのような子どもを、自宅から引き出す一つのツールになると思う。学校からの疎外感や地域からの疎外感を防ぐことができるのではないかと考えているので、そういった部分にも焦点をあてていただきたい。

#### 【委員長】

教員のネガティブな発想はどこから芽生えているのか、難しい部分ではあると思うが、どのあたりに原因があると思うか。

#### 【委員】

私が学校の教員だったら、地域の方に何を言われるか分からないので不安だなと思う。どのように話を振られるか、急に来て何を言われるのかといったイメージだと思う。実際どうなのか分からないが、教員も担任だったら絶対に行事に関わらないといけないといったイメージがあるので、それがしんどいかなと思う。

#### 【委員長】

先ほどの委員の話にもあったが、地域に出て行くと何を言われるかといった不安があると思うし、一方で、教員である以上はやらなければいけないといった固定観念を持っているかもしれない。

### 【委員】

地域からの強烈なリクエストに関しては、地域コーディネーターが緩衝材になれるし、緩衝材になれる方がコーディネーターになっている。入ってくる際に、学校運営協議会経由で入ると学校に直接伝えることができるので、やりやすい。

### 【委員長】

知らないと不安や怖いという気持ちが先行するので、知らない状態から知るという一歩を踏み出すためには、地域コーディネーターや、校長先生が緩衝材になるよということが、教職員が地域に飛び込んでいくためには必要なのではないかと思う。

もう一つ、委員から学びをどうとらえるかという大切な視点をいただいた。学びについて、学校から言うと、教科の学びや学校生活に関わることとして、狭くとらえてしまうのだが、もっと広くということだろうか。

### 【委員】

学びという言葉が広すぎて、どこまで、どう関わるのかは地域の方は分かりづらい。教科ごとにカリキュラムがあるということを先生方は理解できていると思うが、地域の方は小学校や中学校のカリキュラムは分かっていない。地域の方は自分たちがどのような学びを期待されているのか知りたいのではないかと思う。

どのようなことを学校にやってあげれば自分たちは役に立てるのか、また、地域の方が関わってくれることで役に立っていることを明確にすることが熟慮での話になってくると思う。言葉だけで見ると、学びとは何かといった話に地域の方はなるので、どこまでが学びと捉えられてるかという部分に分かるようにすることが大切なのではないかと思う。

### 【委員長】

学校の学びがあるように、地域の学びがある。地域の学びは分かりづらいのもっと明確にしていくことが必要なのではないかと思う。

### 【委員】

何をもちて学びとするかということは凄く大事である。地域と学校はなぜ連携協働しないといけのないのかということは、一番大きな根拠になる。春野中の教職員にはいつも話をしているのだが、スタートする際に、学校教育目標や、地域の子どもたちを真ん中に据えて、どのような子どもを育てるか、目指す子ども像の策定で皆が知恵を出し合い、作り上げるということが一番必要である。皆で決めた目指す子どもの姿であるので、当事者としてみんなに関わる。すべての活動が、全て意味があるというわけではないが、活動しても、何のためにやっているか、活動あって学び無しといった状態であれば、地域学校協働活動になりえないので、それぞれの活動を通じ、どのような力を子どもに身につけさせるかを共有し、実践し、振り返ることが大事で、学びとは何か、しっかりと共有するところがスタートだと思っている。

また、委員のような推進員がいたら頼もしいし、学校と、地域をつなげられる。現場の教職員にコミュニティ・スクールの制度について、あまり理解が進んでないので、理解を深めていただくためには、研修のあり方が1つのポイントになってくると思う。教頭や主幹教諭または現場に地域連携担当教員を

校務分掌に位置付け、その教職員中心の研修を行うと、大崎委員が言われたような実践との関わりの中で目覚める教職員がいると思う。

【委員長】

校務分掌に、地域連携担当は明確に位置付けられているものか。

【委員】

何年か前に、出来るだけ位置付けるといった話があったと認識はしているのだが、校務分掌上に位置付け、どこかに提出することはないが、本校は、各学年に地域連携担当教員を校務分掌に位置付けている。また、地域学校協働本部の協議会を年に2回行っているので参加している。地域連携担当教員が入ってくるような研修や機会を仕組んだり、増やしたり出来たらと思う。

【委員長】

実際に校務分掌に位置付けられていれば、自分は地域連携担当と自覚が生まれ、研修会に参加するインセンティブになるのではないかと思う。

【委員】

地域学校協働活動については、本校は1日先生であじさい太鼓を取り上げ地域の方を講師に迎えて、あじさい太鼓の実演や太鼓のたたき方を行っている。郷土愛を含め、チャレンジ精神を明確につけるべき力として取り組んでおり、地域の方も知っている。今度あじさい太鼓の発表会があり、2人の生徒が参加するようになった。学校の教職員が発表会へ向けた練習について行っていない。

地域学校協働活動は、学校と地域の方がいつも同じ時間、同じ場所で活動していれば、働き方改革とは逆行する。目指す子ども像があれば、学校の中で教職員が行う活動があれば、学校へ行って地域の方々と一緒に行う活動、教職員が地域で一緒に行う活動、地域の方に任ず活動もある。

地域の方が、地域で預かり子どもたちを育ててくれれば、協働は、目標ビジョンを共有して何のためになっているのかがブレなかったら、構わないと思うので、役割分担を行いながら、これからそういうのをどんどん増やしていきたいと思う。

【委員長】

役割分担や分業体制についてはある程度、学校や地域の中で組織を作らなければいけないと思うが、分業体制が出来れば、教職員の負担軽減につながり、かつ、子どもの学びが充実していくかもしれない。

【委員】

教職員が、地域に一步踏み出すことが出来ない状態が続いているのではないかと思う。一步さえ踏み出すことが出来れば、あとは、それなりに転がっていけるような状態になる。一步踏み出すことの勇気は、学校管理職の先生方が背中を押してくれるような環境があれば、地域の方に行って大人は子どもに、子ども大人に返すという好循環が生まれると思う。

【委員長】

協議テーマの資料の裏面の「関連する本件の施策や基本情報等」の欄に、コミュニティ・スクールや

地域学校協働活動を一体的に推進することで、子どもの課題解決に取り組み、改善・解決した学校の割合を100%とするという目標が教育振興基本計画に位置付けられているとある。R9末の目標は100%と設定されているが、今年度は89%である。目標を持ち、事業や施策を推進することがこれからの地域学校協働活動や学校運営協議会に求められている。

より具体的に言えば、こうした目標設定は「地域と学校の連携・協働体制構築事業」において補助金交付の要件となってきた。以前から、目標を立てて、どこまで達成できたか、PDCAサイクルをまわしながら、施策や事業をまわしていくことは変わらないが、より強調されてきている状況がある。このことに関わる子どもの課題解決につながった事例や取組の工夫について発言いただきたい。

#### 【委員】

本校で生活アンケートを行っているのだが、いつも課題としてあがるのが、早寝早起きと電子画面を長時間視聴している箇所の項目がいつも極端に1年生が低い数値が出ている。養護教諭と相談しながら取り組んではいるが、一度学校運営協議会で取り上げてみようかとなり、提案し意見を伺った。会の中で、何か良い方法はないかとなった際に、調べたい項目を2つか3つに絞ったらどうかという意見をいただいた。

私たちの中で、項目を絞る発想はなかったが、項目を絞りアンケートをしたら、子どもたちがそこだけに取り組みをして、意識して頑張るのではないかといった意見をいただき、2月はそういう形でアンケートを行った。絞った項目の意識は少し高くなり、子どもたちの課題解決にはなったかなと思った。教職員以外の発想をいただけたので、良い会だったと思う。

#### 【委員長】

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の事例を紹介いただけたのではないと思う。

#### 【委員】

課題を抱えている親御さんと関わることが多いのではないと思う。色々な会合やワークショップを行っているのですが、ほぼ100%来てくれない。会う方法がないかと思い、地域学校協働本部の方でイベントをしようと思い、会社作りを行った。お弁当の会社とコラボレーションしてお弁当を売ることを行っていた。

その時に、参加する生徒を会社員から社長まで役を決めるのだが、チラシを作り生徒に配ったところ、全然反応がなかった元気な生徒に直接交渉した。最初の親御さんへの許可の連絡は教頭先生に行ってもらい、了解を得てからは自分の方から直接、親御さんに接して色々な話をしていくということで、思い切って家庭訪問した。高岡地区の小学校にも関わっているので、大体の親が見たことあるという認識なので、相手から子どもの事を話してもらおう環境に持ち込んでいった。

一定成功したので、先生方では難しい親御さんたちは、こちらで引き取ってみようかなと思っている。会わないと始まらないので、一歩目を踏み出した感じである。結局は、最後の物販には、普段参加してくれない親御さんも来てくれていた。今から話していけたら、家庭の課題も少し話してくれるようになるのではないと思うし、今後につながるのではないと思う。

対応は非常に難しく、理屈ではうまくいかない部分もあるので、教職員が対応するのはなかなか難しいと実感した。もっと良い方法を考えながら、普段教職員が会えない方に会っていく機会も今後に向

けて構えていこうと思う。

**【委員長】**

委員の話も、好事例だと思い聞いていた。普段、先生方が会えない保護者が1クラスに何人かいると思うので、そのような保護者に会ったり、会話をするきっかけを作ってくれたりしている素晴らしい事例だと思う。

最後に、子どもの課題解決についてご紹介いただいた。89.1%という高い数字ではあるが、中身が大事であり、どのような取り組みの質があるのかということも、目を向けていけたらと思い、話題として提供させていただいた。

まだまだ協議が深まりそうですが、ここで終わりにしたいと思う。